

2016年度(平成28年度)学校評価自己評価表

I 福山市のめざす子ども像

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

II 前年度の学校関係者評価を踏まえた改善点

伸び悩んでいる項目(確かな学力・健やかな体)は、具体的な改善方を全教職員で共有して、全職員のベクトルを合わせて、課題の見直しを図り、成果につなげる。

III 中学校区

1 めざす子ども像

あたりまえのことを、ひたむきにやりきる子

2 研究主題及び主な研究内容

主体的に学ぶ子どもの育成 ~つながりを大切にしたい学び合いのある授業を目指して~

3 現状(成果及び課題)

(1) 児童生徒

○ 学力の定着が十分ではない。

※ ()は県平均との差

全国学力・学習状況調査(中3)		
	A問題	B問題
国語	75.0(-1.5)	65.8(-1.2)
数学	61.5(-3.1)	40.2(-2.5)
理科	45.9(-6.3)	

「基礎・基本」定着状況調査(中2)		
	タイプ I	タイプ II
国語	76.3(+0.6)	68.0(+3.2)
数学	71.4(-2.8)	55.9(-1.3)
理科	43.7(-7.3)	44.0(-5.1)
英語	65.9(-4.3)	54.7(-5.9)

○ 自己効力感が低く、人間関係づくりが不得手である。

自分の意見を伝えることや考えたことを実行すること、話し合いによって考えを深めたり、広げたりすることが十分でない。(「基礎・基本」定着状況調査(中2))

自分にはよところがある	自分のよさは、周知から認められていると思う	相手に分かりやすく伝わるよう工夫している	考えたり探したりしたことについて、実践に取り組んでいる	友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている
67.1(-1.9)	48.2(-11.9)	37.2(-19.2)	38.4(-24.3)	59.8(-14.4)

(2) 授業

- めあての板書は意識している、 ● めあてを授業展開に生かす工夫が必要である。
- 集団思考になるための意図的なグループ学習ができつつある。
- 3分前着席ができつつある。 ● 授業終わりの時間を教師が守れていないことがある。
- 教室環境整備を行うことが習慣化されつつある。

最終更新日

2016年(平成28年) 4月 10日

神辺中学校区

校番 80

福山市立道上小学校

IV 自校

1 学校経営方針

(1) 学校教育目標

豊かな心を持ち、共に高まり合う子どもの育成

(2) 自校の使命(ミッション)

社会に貢献する人づくり

(3) 自校の将来像(ビジョン)

- 人・もの・ことを大事にする・「学び合い」ができる子がいる学校
- 子ども理解のできる教師・子どもをつなぐ働きかけができる教師がいる学校
- 家庭・地域とつながり、共にめざす子ども像に向けて取り組む学校

2 研究主題及び主な研究内容

- 仲間と共に成長することを目標とした授業づくり
~算数科・音楽科を中心とした「学び合い」のある授業づくり~
- ・子どもと共有できる単元構想の在り方
 - ・つまずきから見える子ども理解と学習意欲を高める教材研究
 - ・子どもの思考をつなぐための教師の支援の在り方

3 現状(成果及び課題)

(1) 児童生徒

- ・落ち着いた学校生活が定着しつつある。
- ・言葉を通して互いに分かり合おうとする力が必要である。
- ・教師の目の届かないところでも自治できる推進力が必要である。
- ・自己有用感・向上心を高める必要がある。

(2) 授業

- ・「学び合い」のイメージはできつつある。
- ・子どもと共に成長する仲間であることを自覚する必要がある。
- ・子どもが語るべきところを教師が解説しすぎる傾向にある。

4 めざす授業の姿

- 子どもが自然体に関わりながら、共に成長が実感できる授業
- <教師が心がけること>子どもの表情を見る、子どものつぶやきを拾う、子どもと同じ目線で聴く、子どもの発言の意図を理解する、教師が解説しすぎない、適宜、相談を入れて全員参加させる、つなぐ働きかけを行う。
- <教師の働きかけ・言葉かけ>とめる、ほめる、促す、相談させる、もどす、方向づける、ゆさぶる

V 目標・取組・評価指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	10月1日 □指標にかかる取組状況 ◎改善方策	尤 也 評 価	達 成 評 価	2月末 □指標にかかる取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 ◎改善方策	尤 也 評 価	達 成 評 価	総合評価
確かな学力	1	各種調査において県・国の平均を上回る学力をつける。	★	見直し	○各種調査において通過率30%未満の児童の割合を10%以下にする。	○算数科を中心とした「学び合い」のある授業づくりを行う。学期毎に学年での教材研究を行い、全学級校内授業研究を行う。 ○チャレンジタイムを設け、個の実態に合わせた学力補充を行う。	○CRT テストにおいて、全国値より5P以上上回る。 ○国語「言語」算数「技能」において単元テスト・学期末テストの平均を90点以上にする。							
豊かな心	2	児童の自己肯定感を高める	★	見直し	○児童の「自分には良いところがある」「自分の良さは他人から認められている」に対する肯定的評価を前年度平均より5%上げる。	○教師や保護者が児童、児童同士が良さを認める機会を増やす。 ○学期に1回(5月・9月・1月)アンケートを実施し、実態をつかんで改善策を図る。	○自分には良いところがある児童の割合を85%以上にする。 ○自分の良さは他人から認められていると思う児童の割合を75%以上にする。							
健やかな体	2	心身ともに持続力が備った児童を育成する。		見直し	○新体力テストにおいて、県平均を上回る種目率を50%以上にする。	○体育の授業において、柔軟運動と握力を高める運動を取り入れる。 ○保護者の協力を得て、家庭での体力づくりの日常化を図る。 (がんばりカード、ステップアップカードの活用)	○実施している授業の割合を80%以上にする。 ○家庭で体力づくりに取り組んでいる児童の割合を80%以上にする。							

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

力量ある教職員	2	自ら学ぶ授業づくりに取り組む。	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○教師(自己評価・相互評価)の「自ら学ぶ授業になっている」に対する肯定的評価を80%以上にする。 ○「学び合い」のある算数授業を全学級実施する。 ○全学級において、校内授業研究を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○足場のある単元計画を作成し、学年で統一した授業を実施する。 ○年間2回以上する。 						
市民から信頼される学校	2	結果責任を果たすための組織的な取組をする。	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートによる肯定的評価を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより・学級だよりを発行し、児童の様子・活動内容を家庭・地域に発信する。 ○保護者からの質問や相談に対しては、ささえ(連絡帳)や電話連絡などいねいに対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○月1回以上発行する。 ○100%対応する。 					

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決をあまり図ることができなかった
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決を図ることができなかった

[総合評価]

評価	基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった